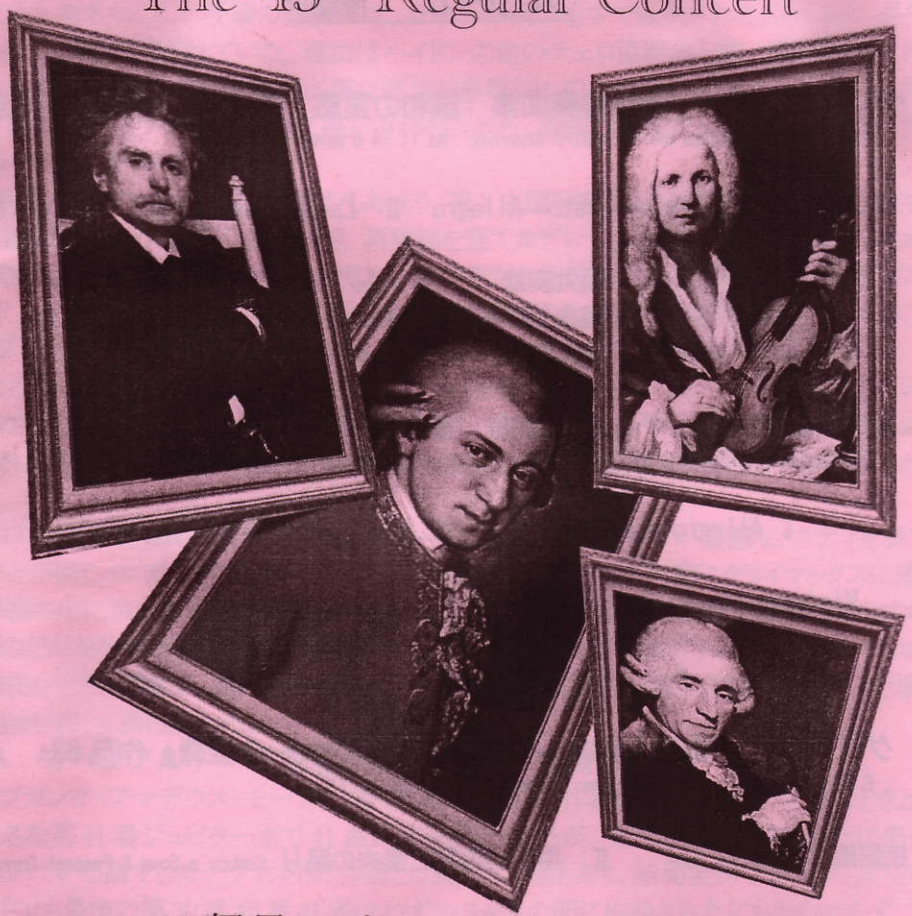
芦屋室内合奏団
ASHIYA CHAMBER ORCHESTRA

第43回定期演奏会

The 43rd Regular Concert



伊丹アイフォニックホール
ITAMI Aiphonic Hall

平成21年12月12日（土）
Saturday, 12 December, 2009

開場 午後1時30分　開演 午後2時
Opening at 1:30 p.m. Beginning at 2 p.m.

ごあいさつ

昭和40年、芦屋浜町の橋本邸で発足した当団も本日で43回目の定期演奏会を迎えました。

今回のトピックと致しましては、本年はハイドンの没後200年に当り、年初より各地で彼の作品が取り上げられて参りましたが、当団もその代表作の一つである「チェロ協奏曲ニ長調」を、新進気鋭のソリストを迎えて、ご披露致します。

永年にわたり、相変わらず当団を暖かく見守ってくださいますご来場の皆様方に、厚くお礼申し上げます。

2009年 12月　芦屋室内合奏団 団長 青柳　良
団　員　一　同

プログラム　PROGRAM

A. ヴィヴァルディ　合奏協奏曲集「調和の霊感」第11番 ニ短調　作品3-11
A. Vivaldi　Concertos 'L'estro Armonico' No. 11 in d minor Op. 3-11

I Allegro —Adagio e spiccato—Allegro　II Largo e spiccato　III Allegro

1st Violin Solo　鳥丸安雄　Yasuo Torimaru
2nd Violin Solo　福永千江子　Chieko Fukunaga
Violoncello Solo　鳥丸直子　Naoko Torimaru

F. J. ハイドン　チェロ協奏曲　第2番　ニ長調　作品101
F. J. Haydn　Concerto for Violoncello No. 2 in D Major Op. 101

I Allegro moderato　II Adagio　III Allegro

Violoncello Solo　内田　佳宏　Yoshihiro Uchida

♪　休　憩　Intermission　♪

E. グリーグ　弦楽合奏曲　「2つのノルウェーの旋律」作品63
E. Grieg　String Ensemble 'Two Norwegian Melodies' Op. 63

I 民謡風に In a Folk Song　II 牛飼いの歌と農夫の踊り Cowboy's Song & Peasant Dance

W. A. モーツアルト　交響曲第40番　ト短調　KV550
W. A. Mozart　Symphony No. 40 in g minor KV550

I Molto Allegro　II Andante　III Menuetto　IV Allegro assai

指揮　酒井 睦雄　演奏　芦屋室内合奏団
Ashiya Chamber Orchestra　Conducted by Mutsuo Sakai

曲目解説

■ A. ヴィヴァルディ　合奏協奏曲集「調和の霊感」 第11番 ニ短調 作品3-11

アントニオ・ヴィヴァルディ（1678-1741）は1711年に12曲からなる協奏曲集「調和の霊感」を出版した。曲集はソロヴァイオリンの協奏曲が4曲と複数の独奏ヴァイオリン又はこれに独奏チェロを加えた合奏協奏曲風の8曲からなり、今回演奏する第11番は後者に該当する。

第1楽章は2つの独奏ヴァイオリンによるアレグロのカノンから始まり、さらに独奏チェロと通奏低音がつづく。アダージョを経由して、再びアレグロのフーガが演奏され、最後はリタルダンドで終わる。第2楽章は古典イタリア歌曲のシチリアーノ形式で書かれ、最初と最後にトゥッティが演奏され、合間に第1ヴァイオリンの独奏が活躍する。第3楽章は最初第1第2ヴァイオリンのフーガで始まり、ソロとトゥッティとが交互に演奏されるリトルネッロ形式で書かれている。

■ F. J. ハイドン　チェロ協奏曲 第2番 ニ長調 作品101

100曲以上の交響曲を作曲したフランツ・ヨゼフ・ハイドン(1732-1809)は3曲のチェロ協奏曲を残している。そのうち有名なこのニ長調の協奏曲は、自筆の原稿が途中で紛失されたこともあり、長らくハイドンの作であることが疑問視されていた。理由はハイドンの他のチェロ協奏曲と違い構成が複雑でしかもハイポジション、重音など、高度な技巧が必要な部分が多用されていることによる。しかし、1954年に自筆原稿が再発見されて、ようやくこの論争に終止符が打たれた。編成は独奏チェロに弦楽5部及びオーボエとホルンそれぞれ2管からなる。

第1楽章は、ヴァイオリンの第1主題から始まり、第2主題を演奏した後独奏チェロがヴァイオリンと同じ音程で主題を歌い始める。その後展開部、再現部を経てカデンツァがあり、短いコーダで終わる。第2楽章はイ長調で書かれ、最初からチェロが明るい伸びやかな旋律を歌う。第3楽章はロンド形式で書かれている。まず、ソロの軽快な旋律で始まり、途中ニ短調に転調されるが再び長調に戻って終わる。

■ E. グリーグ　弦楽合奏曲 「2つのノルウェーの旋律」 作品63

有名なピアノ協奏曲や組曲「ペールギュント」を作曲したノルウェーのエドヴァール・グリーグ(1843-1907)はこのほかにも多くの民族音楽を作曲しているが、そのうちでこれは弦楽合奏用に1895年に作曲された作品である。本作品は2つの曲からなるが、2曲目は更に調性も拍子も違う2つの曲に分かれている。

1曲目の「民謡風に」はいかにも北欧らしいコードから始まり、ヴィオラが陰鬱なメロディを奏で、チェロ、コントラバスが同じメロディを引き継ぐ。この主題は何度か変奏されて次第にクライマックスに達し、最後は余韻が静寂の中に消えるように終わる。2曲目の「牛飼いの歌と農民の踊り」の前半はやはりゆっくりしたテンポでのどかな牛寄せ歌の旋律が奏でられる。後半は一転して独奏ヴァイオリンがピッチカートの伴奏の上に軽快なリズムを奏で、更に馬のギャロップを思わせる節を含む第二主題をトゥッティで演奏し、それぞれ2回繰り返して曲は終わる。

■ W. A. モーツアルト　交響曲第40番 ト短調 KV550

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756－1791)の作曲した交響曲は、9歳のときとされる第1番から有名な第41番ジュピターまで41曲が列挙されているが、それ以外にも後に新たに発見されたり、番号がついている曲でもモーツァルトの作品とは疑わしい曲もあり、結局全部で50曲くらいといわれている。その中でも最後の第39番40番41番はわずか3ヶ月の間に作曲されたにもかかわらず、いずれも名曲ぞろいである。第40番ト短調には弦楽5部にフルート1、オーボエ2、ファゴット2、ホルン2のほかにクラリネットがある版とない版とがあるが、本日は、オリジナル版のクラリネットがないほうを演奏する。

第1楽章はヴィオラの分散和音の上にヴァイオリンが憂愁を帯びた第1主題を奏でる。次に変ロ長調の第2主題が続き、それぞれ展開され、再現部を経てコーダで終わる。第2楽章は冒頭からヴィオラ、第2ヴァイオリン、第1ヴァイオリンと順番に哀愁を帯びる第1主題を継いでいく。第2主題は変ロ長調に転調されて明るさを取り戻す。第3楽章はト短調であるが、メヌエットであるためかそれほどの暗さは感じさせない。更にトリオ部分はト長調になって弦楽器と管楽器が交互に呼応して華やかさを演出する。最終楽章はリズミカルで激しい動きを伴う第1主題とその変奏の合間に、静かで優雅な第2主題が挟まれており、ほっと一息つくかのような趣をかもし出すように効果的に配されている。　(K.O.)

プロフィール

■酒井睦雄　Mutsuo Sakai　指揮

桐朋学園高等学校音楽科を経て1971年桐朋学園大学卒業。指揮を斎藤秀雄、秋山和慶両氏に、クラリネットを北爪利世、二宮和子、F. フックス各氏に師事。1971年より相愛オーケストラ指揮者、1977年ザルツブルクにてO. スイトナー氏に師事。同年、東京にてS. チェリビダッケ氏のゼミナールに参加。2001年には芦屋室内合奏団を率いてドイツのバンベルクにてバンベルク交響楽団団員とともにニューイヤーコンサート、ドレスデンにてフラウエン教会落成記念コンサート等を行い好評を博す。2005年 第19回京都芸術祭音楽部門 京都府知事賞受賞。現在、相愛大学教授として音楽専門家の育成にあたる傍ら、1974年より芦屋室内合奏団音楽監督、岐阜交響楽団常任指揮者、1990年より高知室内管弦楽団指揮者をつとめる等、アマチュア合奏団の発展にも尽力している。

■内田佳宏　Yoshihiro Uchida　チェロ独奏

幼少の頃ヤマハ音楽教室でピアノを習う。2000年、京都薬科大学入学と同時に学内のオーケストラにてチェロを始め、酒井睦雄氏の指揮の下活動を始める。在学中に演奏家を志すようになり、卒業後林裕氏に師事する。師の勧めにより翌2006年東京芸術大学（別科）に入学し、その後同大学院修士課程に進学、現在二年目として在籍する。2006年熊楠の里音楽コンクール第一位、及び紀伊民放社長賞受賞。2007年度青山音楽新人賞受賞、以来毎年京都青山音楽記念館（バロックザール）にてリサイタルを行っている。これまでに林裕、河野文昭、西谷牧人の各氏に師事。室内楽を松原勝也、玉井菜採、ほか多くの指導者に師事。またマスタークラスにおいてピエール・ドゥマンジェ、グスタフ・リヴィニウス等の指導を受ける。

■芦屋室内合奏団

音楽監督	：	酒井睦雄
団　　長	：	青柳 良
マネジャー	：	伊藤恵子
会　　計	：	藤本恭子
ヴァイオリン	：	青柳 良　伊藤耕平　勝部 操　喜多智佐子　田島光子　◎鳥丸安雄 中村真貴子　○福永千江子　藤本恭子　三村誠子　吉岡道子
ヴィオラ	：	○伊藤恵子　大内隆一　音村圭一郎　堀田純子
チェロ	：	○鳥丸直子　堀田一之　宮崎晴夫
コントラバス	：	○末松秀樹　武村浩嗣(客演)
チェンバロ	：	小津久子
フルート	：	松島美香(客演)
オーボエ	：	Ⅰ橋爪惠梨香(客演)　Ⅱ大木悠加(客演)
ファゴット	：	Ⅰ羽生尚代(客演)　Ⅱ内等すずえ(客演)
ホルン	：	Ⅰ佐藤友貴(客演)　Ⅱ小坂智美(客演)

◎はコンサートマスター　○はパートリーダー

当合奏団は1965年、当時の神戸大学、甲南大学の学生オケの首席奏者と初代指揮者 中島良能(現湘南エールアンサンブル音楽監督、ルーマニア国立ボトシャニフィル首席客演指揮者)等が芦屋市の故橋本宗夫氏宅に集まり、スタートした。1974年からは相愛大学教授 酒井睦雄氏の指導を受けている。40年以上に亘る演奏活動で取り上げた作品は、ヴィヴァルディ、バッハ、ヘンデルをはじめとするバロック音楽、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンからロマン派、現代音楽まで多数にのぼる。鍵盤楽器、弦楽器、管楽器奏者、また声楽の方々との共演も積極的に行ってきた。毎月2回の日曜日、練習場に各々愛器を携えて集い、練習時間は真剣そのもの。 団発足からすでに 40 年以上が経過し、中核となる団員も当時の元気溌剌たる青年から、早や還暦を過ぎる年齢となり白髪やしわが目立つようになった。休憩の合間の雑談でも話題は孫の話から肩が痛い、指が痛いといった病気の話が多くなっている。それでも定年退職で有り余る時間と豊かな人生経験を武器に情熱を音楽に注いでいる。音楽をとことん楽しむ団員ぞろいの合奏団である。